

経営比較分析表

長野県 小諸市

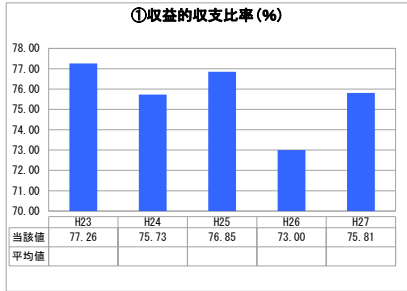
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	18.48	100.00	3,250

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
43,311	98.55	439.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,966	3.41	2,336.07

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



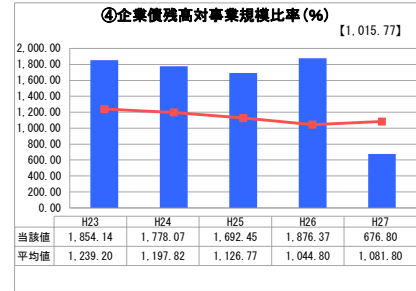
「単年度の収支」



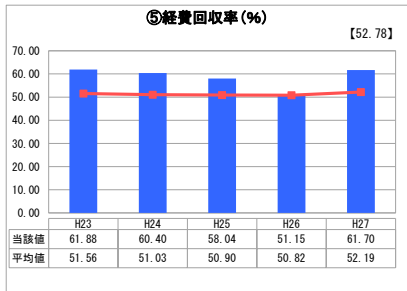
「累積欠損」



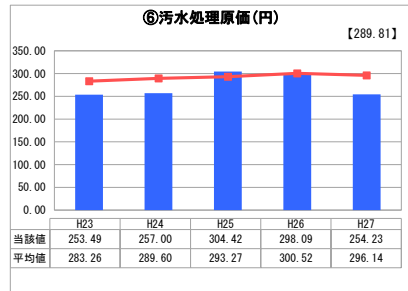
「支払能力」



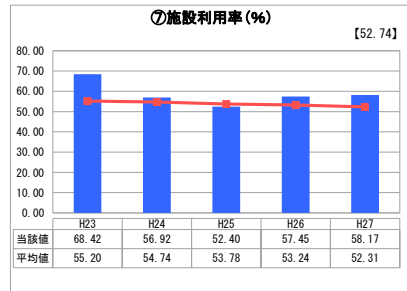
「債務残高」



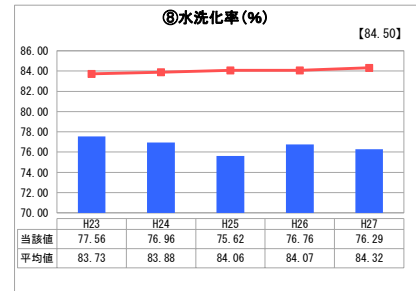
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率について、100%を下回っており使用料収入のみでは賄えていない。その原因として定額制による料金制度が一因となっているため、早急に従量制料金制度への移行を図る必要がある。また、公共下水道と同様に一般会計からの多額の繰出金に依存している。

④企業債残高対事業規模比率について、類似団体の平均値を上回り、減少傾向にあるため、計画的に企業債残高を減らしていると推測される。

⑤経営回収率について、62%程度となっており、使用料で回収すべき経費が使用料で賄えていない。汚水処理費の削減と使用料の適正化が必要である。

⑥汚水処理原価について、類似団体の平均値を下回っているが、5つの処理場を要し、汚水処理費が高いため、処理場の統合により効率的な処理を実施していく必要がある。

⑦施設利用率について、類似団体の平均値を上回っているが、今後、処理区域内の人口減少により低下していくことが推測される。

⑧水洗化率について、類似団体の平均値を大きく下回っているため、更なる水洗化率の向上を図っていく必要がある。

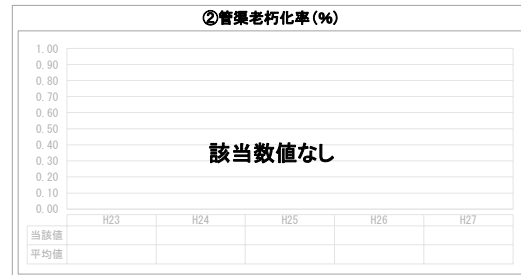
2. 老朽化の状況について

③管渠改善率の指数は0%であり、類似団体と比較して低い数値となっている。要因としては、管渠の更新・改良の時期に達していないことなどが考えられます。最も古い処理区では、施設供用開始後20年以上経過しており、老朽化が進んでいると考えられるが、詳細を把握できていない。今後はトータル手法を踏まえた長寿命化計画の策定と、適切な維持管理を実施することで、資産の延命化及び資産管理の最適化を図っていきます。

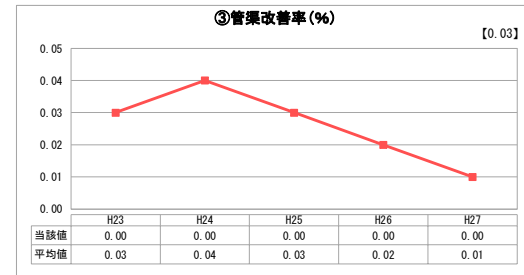
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

全体総括

経営の健全性・効率性及び老朽化の状況の分析から、経営状況は全体的に良好とは言えず、汚水処理費が高く、使用料収入が十分でないことから経費回収率が100%を下回っていることから、従量制料金制度への移行を図り、更なる費用削減を図り健全経営を図っていきます。

今後、水需要の減少等使用料収入の伸びは期待できないことから経営環境は厳しさが続くものと予測されます。

平成30年度には企業会計の適用を予定しており、固定資産の評価等からより正確な経営状況を把握し、適正な料金の設定や処理場を公共下水道等へ接続するなど長期的な視点からの経営を図っていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。